

予算を「家計」に例えると？

立科町の1年間の収入と支出（一般会計予算額40億円）を年間の収支が500万円の家計に例えてみます。

立科町の家計簿（もし年間の収支が500万円の家計だったら）

収入







給料(町税)	100万円
諸手当(使用料等)	63万円
貯金の取崩し(繰入金)	38万円
親の収入(交付税・国県支出金)	274万円
銀行からの借り入れ(町債)	25万円
合計	500万円

支出

食費(人件費)	94万円
医療費(扶助費)	38万円
ローン返済(公債費)	43万円
自治会費・習い事代(補助費等)	87万円
車や家の維持・修理代(維持補修費)	6万円
光熱水費・電話・消耗品(物件費)	86万円
子どもへの仕送り(繰出金)	89万円
自動車購入費(建設事業費等)	42万円
貯金(積立金)	2万円
その他	13万円
合計	500万円

食費(人件費)・医療費(扶助費)・ローン返済(公債費)は「義務的経費」呼ばれています。これが多いと、家計にあまり余裕がないことを意味します。
立科町の歳出総額に占める義務的経費の割合は35.3%です。

町民一人あたりの歳出（人口：7,777人 平成25年2月1日現在）

●健康を守るために 25,144円	●高齢者や児童福祉等に 111,551円	●教育や文化等の振興に 36,831円
		
●道路・河川・住宅環境に 92,317円	●日常生活の環境整備に 26,349円	●観光・商工業の振興に 34,742円
		
●農林業の振興に 23,732円	●防災・救急のために 17,801円	●一般行政経費に 145,870円
